東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

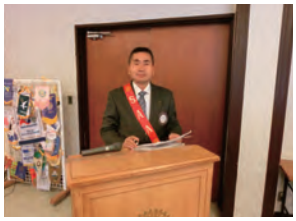
国際ロータリー
テーマ

奉仕を通じて
平和を

Vol.46　第2250回例会　2013.2.14

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
田中例会運営委員長



■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「我等の生業」

◆ソングリーダー：
村田会員

■お客様紹介：
野澤パスト会長

◆ゲスト：
入会予定者
清水啓量様

◆ビジター：
米山奨学生
朴動浩君

■奨学金授与

■奨学金授与：
中丸会長から
朴動浩君へ

■近況報告：朴動浩君

こんにちは。実は3月までなので、今日が最後の出席となりました。自分の報告をしますと、先週に論文の一時審査が無事に終わって、まだ2回残っているのですが、多分日本にあと6か月はいると思いますので、何かの機会には参加できればいいなと思っています。これからもよろしくお願いします。

■会長報告　中丸会長

皆様、先日は武蔵村山ロータリークラブ設立40周年記念式典に、立川のパレスホテルまで、足元の悪い中ご出席頂き有難うございました。本日は入会予定者と

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

して清水さんがお出で下さいました。清水さんごゆっくりして行って下さい。そして是非ご入会をお待ちしておりますので宜しくお願い致します。また、米山留学生の朴さん、勉強が忙しい中ようこそ。3月以降もお時間があれば、例会等にお出で下さい。
　さて、いよいよ来週は沖縄での親睦旅行を兼ねた地区大会です。ホストは我々の友好クラブ宜野湾ロータリークラブです。地区大会を盛り上げ楽しい沖縄旅行に致しましょう。
　次に2月5日に実施した理事会報告をさせて頂きます。

2月度理事役員会報告　2月5日 PM6:30より
於：久米川ウイングホテル2Fロビーにて

1.1月の収支会計報告について
　金子会計より説明があり異議なく承認された。

2.その他
①目時会員「出席義務規定免除のお願い」提出の件
　審議の結果、承認された。

②多摩東人権擁護委員協議会「子供たちからの人権メッセージ発表会」後援依頼について
　(東村山市市民部生活文化課長より)
　審議の結果、費用等詳細を調べた上決定することとした。

③創立45周年記念事業会計報告
　小町直前会長より説明があり承認された。

④皆出席及び再入会時の年数計算方法等について
　他クラブ等の実施状況を調査した上で再度審議することとした。

⑤献血の報告（1月31日実施）
　漆原社会奉仕委員長より結果報告があった。

⑥地区大会本会議に於けるドレスコードについて
　地区大会ホストクラブである宜野湾ＲＣに確認したところ、ジャケット＋ネクタイが望ましいとのことからネクタイ着用を推奨することとした。

■幹事報告　赤木幹事

■新世代奉仕委員会：
　地区新世代奉仕委員会アンケート(地区内実態調査)の速報版報告

■ガバナー事務所：
・地区大会事務局員の登録受付業務協力のお願いについて
　2月20日(水)　集合11:00　受付開始12:00
　於　沖縄コンベンションセンター

・2013～14年度地区チーム研修セミナーの案内について
　2013年3月12日(火)　13:30～
　於　京王プラザホテル

・2013～14年度ＰＥＴＳ(会長エレクト研修セミナー)案内について
　2013年3月22日(金)　13:30～
　於　ハイアットリージェンシー東京

■環境保全委員会：
　2012～13年度地区環境保全委員会セミナー及びバズセッションの案内について
　3月25日(月)　14:30～
　於　上野精養軒

■ロータリー財団：
・第12期(2013～15)ロータリー平和フェローカウンセラー募集のお知らせ
　内容：第12期ロータリー平和フェローのカウンセラー
　人数：1名
　条件：多摩分区内ロータリークラブの会員
　期限：2013年2月28日(木)→申出の締切

・ロータリーフェローズ東京　春季例会の案内について
　2013年3月9日(土)　13:00～
　於　日本外国特派員協会

■訃報：
　第2580地区2004～05年度ガバナー　小堀啓介 様
　那覇西ＲＣ元会員　小堀啓介様　2月11日逝去
　通　夜：2月12日(火)・13日(水)　19時～21時
　　於　サンレーグランドホール中央紫雲閣
　告別式：2月14日(木)　16:15～
　　於　サンレーメモリアルホール那覇北井運閣
　喪　主：小堀俊子令夫人

■例会変更：東京臨海ＲＣ2月19日→特別休会

■回覧：
・国際ロータリー　ニュースレター
・ハイライト米山
・ロータリー囲碁同好会
　第14回ロータリー国際囲碁大会の案内

■出席報告　相羽例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
29	24	0	1	96.00

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：2名
■前々回出席率メークアップ修正後：92.31％
■前々会メークアップ者：
　飯田会員：京都西ＲＣ
　當麻会員：理事会

■ニコニコＢＯＸ　　山宮クラブ管理会員

■皆出席：
樺澤会員（16回目）

■皆出席：
町田会員（18回目）

■ご結婚祝月：
石山会員

■会員誕生祝月：
野澤会員、町田会員

■令夫人誕生祝月：
山本会員

◆中丸会長、赤木幹事：
先週の武蔵村山ＲＣ40周年記念式典には足元の悪い中、出席いただきありがとうございます。来週は沖縄です。地区大会と親睦旅行楽しんでまいりましょう。清水さんようこそおいで下さいました。ごゆっくりしていって下さい。

◆荻野会員：清水啓量様、ロータリークラブにようこそ。

◆戸澤会員、野村（裕）会員、相羽会員、金子会員、野村（高）会員、村田会員：
菱沼さん、いつもお世話になりありがとうございます。チョコレートありがとうございます。

◆野崎会員：菱沼さん、愛を込めたチョコレートありがとうございました。

◆菱沼事務局：
皆様いつもお世話になっております。今日は皆様に感謝の気持ちを込めてチョコレートをメールＢＯＸに入れさせて頂きました。1つだけ当たりがあるかもしれません。なんてね!! 今後ともご指導頂きますよう、よろしくお願い致します。

本日のニコニコ合計：　38,000円
累　　計　：　949,800円

■委員長報告

■石山クラブ管理委員長

皆さん、こんにちは。いよいよ地区大会及び親睦旅行が5日後になりました。6:20集合、6:30東村山駅東口出発ですので、時間厳守でお願いします。なお、当日バスに乗られない方は、私もしくは事務局までご一報ください。万が一、バスに乗り遅れた場合は、電車で十分間に合います。慌てず落ち着いて9:30までに羽田空港にお越しください。それでは2月19、20、21日の3日間、よろしくお願い致します。

■小町会員研修副委員長

皆さん、こんにちは。先週の立川での講演では、なかなか聞くことのできないロシアの話、大変内容があり楽しく聞いてきました。

では、ロータリーの友の内容に移ります。横書き1P、ＲＩ会長のメッセージ『「超我の奉仕」が生みだす希望と平和』には含蓄のある話が載っております。その中に「超我の奉仕」というのは、私たちが自分の欲を満たすより、他者のニーズを優先する道を選ぶということです、と書いてあります。読んでみてください。

5P～の『世界に目を向ける』にもいろいろな話が載っていますので、目を通しておいていただきたいと思います。13P～『平和を求める声』には、今までのロータリーの歴史をうたっておりますので、よく読んでおいていただきたいです。

縦書きの2P～『チェルノブイリ原発事故のその後と福島』には、講演会での松本市長の話が載っております。いい話ですのでぜひ読んでみてください。

また、ロータリーの理解推進月間ということで、会員研修の方も担当になっておりますので、これは2月の地区大会の次の週、28日に野澤会員に卓話をお願いしていますので、よろしくお願い致します。

蛇足ですが、世界大会においては戸澤委員長が頑張

っておられるからだと思いますが、昭島の方に聞いたところ、40数名中1人しか行かないそうです。東村山の話をしたら、人数の少ない割にそんなに活気のあるところがあるのかとうらやましがっておられました。昭島の方は人数が多いけれど、なかなか世界に目を向けていないというところがあるようでございます。以上です、ありがとうございました。

■目時会員

皆さん、こんにちは。出席免除のお願いは出しましたが、ただ体力に自信がないからお願いしただけで、健康な限りは100％出席が25年続いておりますので、もちろん続ける覚悟であります。

今日は自分の考えていることを皆さんと一緒に考えてみたいと思い、テーマを持って聞いておいていただけるとありがたいと思います。

1989－90年、私どものクラブからアメリカ横断した人が出ました。その時に、地区大会のホストは当クラブでやりました。そういうご縁で、阿部先生と当時の幹事さんたちが宜野湾に行って、私も一度連れて行ってもらったのですが、気持ちがぴったりと合って友好クラブを結んだのが1991年です。ぜひそういう思いで沖縄に行って、親睦を深めていただきたいと思います。

先日、武蔵村山で40周年が行われました。今、安倍首相が「取り戻そう日本」ということをテーマにしてすごく支持を得ています。それと合わせて、素晴らしい40周年でしたが、何か考えるところがあり、自分の考えが変わってきたのか、何か淋しい思いがして、皆さんにも考えて頂きたいと思い、お時間を拝借しました。

ロータリーにはＲＩがあって、ＲＩの会長がいて、日本は日本で各地区にガバナーがいるわけですが、分区があってガバナー補佐がいて、そういう組織になっています。武蔵村山の40周年の4～5日前に、私がガバナー補佐をしていたときにガバナーだった桜井さんに会いました。彼は武蔵村山の40周年の案内が自分には来ていないと言っていました。「私はガバナーを務めたときに武蔵村山さんにホストをやってもらったんです。大変お世話になった。」というのです。地区大会のホストは70年に一度しか来ないのです。非常に残念だと思いました。また小澤秀瑛さんは多摩分区のたった一人のパストガバナーですが、最後まで一言も出番はありませんでした。どうしてロータリーはこんなふうになってしまったのだろうか、時間が30分も余ったのになぜ出番を作ってあげなかったのかと。私の言いたいことは分かっていただけると思いますが、4年後にうちは50周年を迎えるわけですから、私の考えを入れてくれというわけではなく、ぜひ皆さんでもっとロータリーとは何なのかを考えていただきたいと思います。武蔵村山の批判をしているのではなく、私としてはあれだけ時間が余るのであれば、もう少し立場を考えてあげたい人がいましたので、あえて今日、皆さんにも考えていただきたくてお話をしました。以上です。

■卓話

■卓話者紹介：
相羽プログラム委員長

皆さん、こんにちは。本日の卓話者の紹介をさせていただきます。今月2月は世界理解月間ということで、「世界理解月間に因んで」というテーマで當麻国際奉仕委員長に卓話をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

■卓話者：當麻国際奉仕委員長

世界理解月間に因んで

皆さん、こんにちは。本日は「世界奉仕月間に因んで」ということで、国際奉仕とロータリー財団について、私がロータリーの師と仰いでおります2680地区のパストガバナー、田中毅さんの作成されたパワーポイントを使用しながら卓話をさせていただきます。また、同じく田中さんの作成された決議23－34、我々のクラブ概況の後ろの方に書いてありますが、これにも少し触れさせていただいて卓話を進めたいと思います。その中に職業奉仕部門が一部入っておりますので、その部分については、我がクラブの職業奉仕の第一人者であります野澤会員に一言、見解をお話しいただきますのでよろしくお願い致します。

国際奉仕というと、ロータリーの第4奉仕部門でございます。奉仕というロータリーの理想に結束した職業人の世界的な有効による理解、そして善意及び国際的平和の増進、というのが国際奉仕の考え方です。そしてその中の包括委員会として、世界社会奉仕（ＷＣＳ）委員会があり、ロータリー財団委員会があります。国際大会への出席による個人交流も一つの国際奉仕ということであります。ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにあります。今年からこれはロータリーの目的と表現がかわりました。奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職種に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること、ということです。

国際奉仕には二つの流れがあって、一つは親睦（ロータリアンの友情と理解と親睦による世界平和）、もう一つは人道的援助（飢餓・貧困・疾病・教育等に対する国際的援助）これが恒久の世界平和ということです。

また、国連憲章の制定にあたって、世界各国代表団のうち、7名の委員長と20名の代表がロータリアンで、代議員を含めて49名のロータリアンが参画しております。

ロータリーのフェローシップの役割として、ロータリアンの世界的友情・親睦を通じた国際理解と世界平和の促進、国際大会における友情の広場の主役、趣味・職業・保健医療のグループを通じた活動があります。また、日本でポピュラーなＲＦグループとしてアマチュア無線や囲碁同好会などがありますが、日本人ロータリアンの加入は極めて少ないということです。

ＷＣＳとしては、我がクラブでシェルターボックスを始めようということでお話しましたが、これもＷＣＳの一つの事業に入ります。このＷＣＳをやるときの留意点として、プロジェクトの事前調査、援助要請クラブの現況調査、送金方法の選択と確認、プロジェクト進行状況確認、プロジェクト完了の確認、財務処理の確認、を掲げています。

これに関わる問題として、どうしても財団がからまないとやっていけないような状態にあります。ロータリー財団には、国際親善奨学基金、世界平和奨学基金、大学教員のための補助金、研究グループの交換というのがあります。人道的補助金プログラムにおいては、３Ｈ補助金、３Ｈ計画準備助成金、地区補助金などがあり、この地区補助金に補助金を申請してシェルターボックスを継続的に今年から準備して、来年からやりたいと考えています。この補助金を絡めないと1箱8万円なので、最低でも10箱くらいはシェルターボックスの方に送りたいなと思っております。地区補助金として、地域社会援助プログラムＣＡＰ、ヘルピング・グラント、輸送補助金、新人道的補助金があり、ＤＤＦの20%まで地区の裁量により決定され、これを我がクラブで使用させていただきたく申請をする予定であります。この申請は申し込みが3月頃、9月が締切と聞いておりますので、よく調べてシェルターボックスの活動に邁進したいと思います。国際奉仕とロータリー財団についてはこれで終わりにしますが、ざっとご理解いただければありがたいと思います。

次に我々ロータリーに欠かせない、決議23－34について話したいと思います。決議23－34はセントルイス宣言で行われたものであります。採択当初のタイトルは綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を再確認し、国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の手引きとなる原則を定めることでしたが、現在のタイトルは社会奉仕に関するロータリーの方針であります。当初は、ロータリーのすべての活動を規制する指針として作られましたが、四大奉仕移行に伴って社会奉仕に名称変更されました。

コミュニティーの解釈は、古典的なコミュニティーの範囲、家庭・職場・業界全体、町・国・社会全体ということであります。そして、四大奉仕に基づくコミュニティーの解釈は、地域社会での社会奉仕、コミュニティーサービスということです。決議23－34は、ロータリーの奉仕理念を定めた唯一のドキュメントでございます。「Ideal of Service」、直訳すると「奉仕の理念」となりますが、ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、利己的な欲求と利他の感情の間の葛藤を和らげる哲学である。その哲学はService Above Self の哲学であり He Profits Most Who Serves Best の実践理論に基づくものである、ということです。

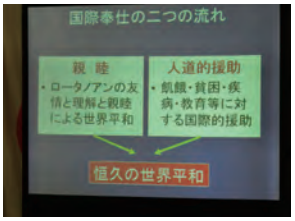
ロータリー設立時の初期の思考は、殺伐とした大都会の中でお互いに胸襟を開いて、どんなことでも語り合える友人をつくるということで、シカゴ・クラブ定款には会員の利益の増大、社交クラブに付随する親睦が掲げられています。対社会的な奉仕概念の導入として、ドナルド・カーターは「利己的な組織には永続性がない。ロータリークラブとして生き残り、発展することを望むならば、我々の存在を正当化するために何ごとかをしなければならない。」と物質的相互扶助から、社会に対する奉仕活動に変遷しております。そしてこの有名な1909年の公衆便所設置運動につながり、これが単なる寄付行為でないということが特徴です。

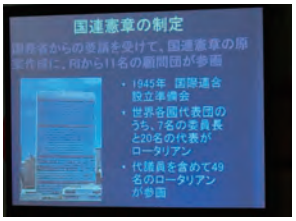
また、アーサー・フレデリック・シェルドンは「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という職業奉仕のモットーを掲げた人です。彼はロータリーの基礎をつくった人と言えると思います。正しい経営学とは他人に利益をもたらすこと、販売学とは他人に対して奉仕する学問、事業を営むことは、経営学という学問を実践すること、事業の発展は、末永く利益をもたらす顧客を確保すること(リピーターの確保)であり、こういうことが職業奉仕の根幹になって今に永遠に受け継がれていると思います。事業における人間関係学として、自分が事業で得た利益は自分一人のものではないということも唱えております。

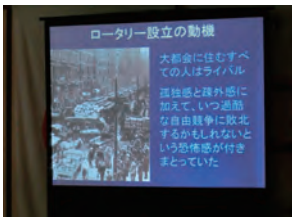
職業奉仕理念の具体化として、1913年のバッファロー大会で事業上適用すべき実践例の収集、1915年には「職業人のためのロータリー道徳律」が正式承認されました。その中に四つのテストが入ることになります。四つのテストとはハーバート・テーラーが倒産寸前のクラブ・アルミニューム社再建のために考え、実践したスローガンで、1954年その版権をＲＩに寄贈しました。

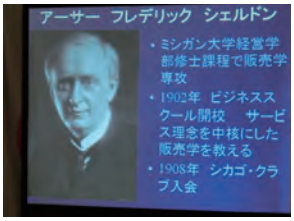
ここで決議23－34に戻りますが、第1条は利己的な欲求と他人への奉仕、相反する二つの心の葛藤の調和ということです。第2条はロータリークラブの役割として奉仕の理論を団体で学ぶこと、奉仕の実践例を団体で示すこと、奉仕活動の実践を個人で行うこと、ロータリーの奉仕理念と実践を一般の人に受け入れてもらうことをうたっています。第3条にはＲＩの役割、第4条には「ロータリー哲学は実践哲学、奉仕するものは行動しなければならない」、第5条はクラブ自治権について、第6条は社会奉仕活動の指針が掲げてあります。

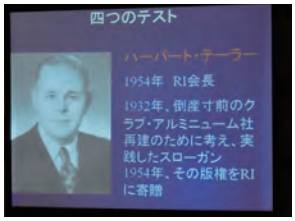
こういう形でロータリーの倫理運動の原理体系の柱として、個人の倫理の確立、ロータリーの道徳律、ロータリーは運動体から1922年定款確立、実践原理をどうするかということで1923年のセントルイス大会で決議23－34を採択しました。ロータリー運動のもとは決議23－34にある、これこそがロータリーを語る上で欠かせないものであると結論付けられております。それでは野澤さんに見解をお願いしたいと思います。











■補足説明：野澤会員

少し早送りでしたが、中身はとても素晴らしい内容だったと思います。當麻委員長に10分ほどの時間を頂いていたので考えてきたのですが、また改めてお話しする機会をいただきたいと思います。というのは、決議23－34の創立の経過というものをもう少し初歩の段階から理解をしていただいて、あの文面を1～2回読んでもなかなか理解できるものではありませんが、社会奉仕の役割や重要性がなぜ1923年に決議34号として採択をされたのかという経過と、もう一つ大事なことは、決議23－34の陰に隠れた職業奉仕、そういうお話しを用意してきたのですが、これを話すと時間がかかりますので、機会があれば時間をいただいて卓話の時間でお話ししたいと思います。

実は、先程の目時先輩のお話しを、私も同じように感じました。「不易流行」という言葉がありまして、これは古き芭蕉の時代に俳句をつくった芭蕉でさえ、弟子を集めて、歌をつくるにしても、俳句を詠むにしても、守らなければならない本質がある、これは絶対に外してはならない。ただし、時代の変遷によって導入しなければならない新しいものがある、これをわきまえて俳句をつくりなさい、という有名な言葉だそうです。

いろいろな人から私たちも教えられて、団体や組織の改革をしなければならないけれど、守らなければいけない、残さなければいけない良き伝統は必ず守っていく、されど悪しきものは対峙して改革しなければいけないと言われています。会社の運営にしても、創立の精神をなくした会社は必ず倒産すると言われています。初代の創立者が血と汗と涙の結晶でつくり上げた創立の精神は、2代目であろうと5代目であろうと必ず守っていけば会社は栄えると言われています。逆に、ロータリアンが経営する会社も過去にいくつかありましたが、金の亡者になって会社を運営する会社は倒産にいとまがない、と言われています。逆に、倫理道徳を守っていく会社で倒産した会社は例をみないと言われているくらいです。

こういうことを、私たちは時代が変わっていっても守らなければならないと思います。先程の目時さんのお話で、私たちもあの時に感じたのは、我々も同年行事やいろいろな大会が必ずありますが、大風呂敷を広げて派手にやることだけ、というのはよくないこと、しかし、やることは小さくて経費も削減して規模も小さくする、果たしてこのことが美徳になるでしょうか。その中でもやはり守らなければならないものは守る、こういうことを教えられたような気がいたします。私もこのように感じましたので一言、お話しさせていただきました。以上です。

■25年1月出席表

	氏　名	3	10	17	24	31	
名	細渕　一男					○	
1	相羽　正		○	○	○	○	100
2	赤木　盛一		○	○	○	○	100
3	飯田　能士		△	△	△	△	100
4	石山　敬		○	○	○	○	100
5	樺澤　襄		○	○	○	○	100
6	金子　哲男		○	○	○	○	100
7	小町　幸生		○	○	○	○	100
8	目時　俊一		△	○	○	○	100
9	村田　秀雄		○			○	50
10	中條　基成			○			25
11	中丸　繁男		○	△	○	○	100
12	野村　高章		○	○	△	○	100
13	野村　裕夫		○	○	○	○	100
14	野崎　一重		○	△	○	○	100
15	野澤　秀夫		○	○	○	○	100
16	荻野　昇		○	○	○		75
17	嶋田　憲三		△	○	○	○	100
18	田中　重義		○	○	○	○	100
19	當麻　誠		○	○	○	△	100
20	戸澤　忠		○	○	○	○	100
21	漆原　次男		○	○	○	○	100
22	山宮　隆		○	○		○	75
23	山本　智治		○	○	○	○	100
公式平均			95.83	96.30	88.76	92.31	93.30
出席規定適用免除者							
1	隅屋　宜一			○	○	○	
2	五十嵐光利		○	○	○	○	100
3	神崎　武						
4	高橋　眞						
5	村越　政光			○		○	
6	町田　清二		△	○	○	○	100

名：名誉会員　○：出席　△：メークアップ

■点鐘：中丸会長